

高知市

No. 143

【編集発行】

社会福祉法人
高知市社会福祉協議会
高知市塩田町18番10号
TEL(088)823-9515
FAX(088)823-8059
E-mail:shakyo@kochi-csw.or.jp
URL:http://www.kochi-csw.or.jp/
平成25年10月発行



社協だより

平成25年度
高知市の目標額
40,129,000円
(一般募金)
12,734,000円
(歳末たすけあい募金)

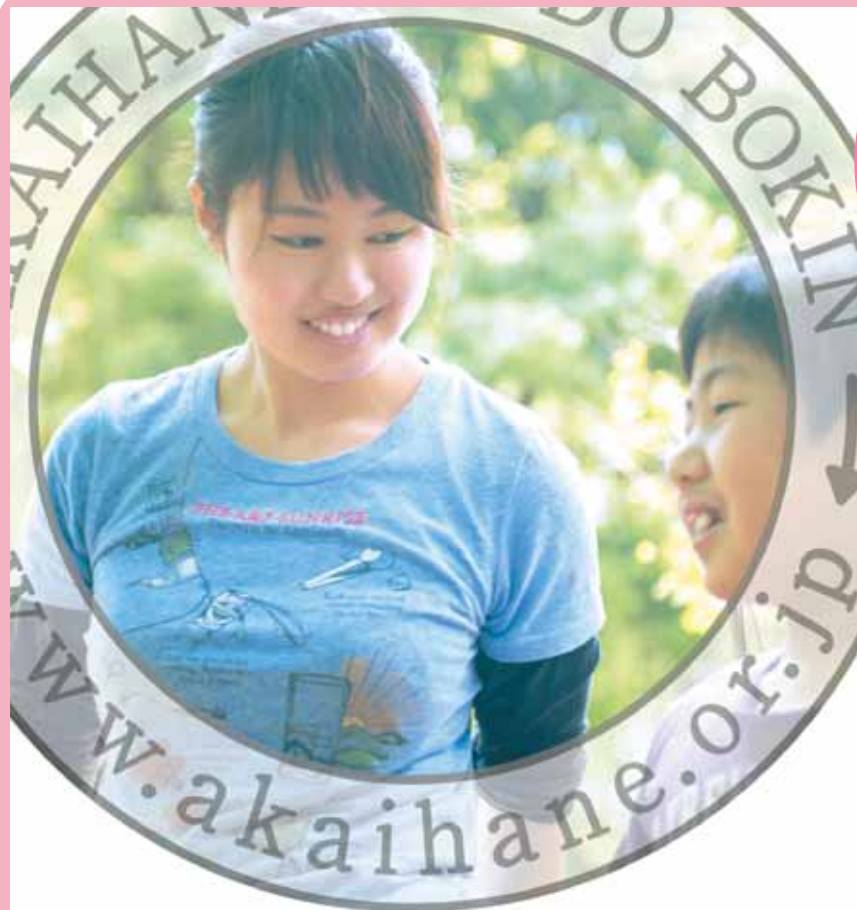


赤い羽根共同募金

今年も赤い羽根共同募金運動が
はじまりました。

お寄せいただいた寄付金は、
地域のさまざまな福祉活動や
ボランティアを支援するために
使われています。

赤い羽根共同募金にご協力ください。



町に愛を。胸に羽根を。



石神井のあかいほね女子
(高知市福祉協議会・高知市福祉センター)

じよんの町を良くするしくみ。

赤い羽根共同募金

www.akaihane.or.jp

高知市社会福祉協議会の会員募集

市社協では、地域福祉活動を推進するために、社協活動にご賛同いただく会員を広く募集しています。

■ 賛助会員	(福祉施設、団体、機関等) で入会された方
会費一口あたり	年額 500円
■ 特別賛助会員	(会社、事務所、篤志家等) で入会された方
会費一口あたり	年額 1,000円

皆様のご善意に支えられています。
内祝・香典返しなどにかえて、社会福祉へのご寄付は高知市社協へお願いします。

また、各地区の民生委員児童委員協議会の皆様にも、沢山の物品を預託していただきました。誠に有難うございました。

社会福祉事業への寄付金

歌謡スタジオドレミ会 様

物品預託

高知市地域保健課 様

(古切手)

高知市保健総務課 様

(古切手)

ありがとうございます

寄付のご紹介

平成25年5月以降

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

小高坂地区地域支え合い会議(準備会)

日時:平成25年8月5日 18:30~20:00 場所:小高坂会館
主催:小高坂地区社会福祉協議会 共催:高知市社会福祉協議会

小高坂地区社会福祉協議会より、「地域福祉の軸を担っている民生委員を対象に勉強会を開催し、その内容をこれからの地域福祉を進めていく上での指標にしたい」との依頼があり、小高坂地区社会福祉協議会事務局と高知市社会福祉協議会で話し合いを行いながら企画し「小高坂地区地域支え合い会議(準備会)」を開催することとなりました。

「小高坂地区地域支え合い会議(準備会)」には、地区民生委員児童委員約25名の方々に参加していただき、アドバイザーとして高知県立大学の田中きよむ教授にも協力をしていただきました。

また、今回の小高坂地区地域支え合い会議(準備会)の企画にあたっては、小高坂地区社会福祉協議会事務局の方から、「堅苦しくない、参加者みんながざっくばらんに意見を出し合える会にしたい」との要望がありましたので、「地域福祉を考える～なぜ、今、地域福祉が必要なのか。なぜ、地域住民が主体となるべきなのか～」というテーマの講話を聞いていただいた後、グループワークにて参加者同士がざっくばらんに意見交換を行うという内容になりました。

<講話の様子>

講話は、高知市社会福祉協議会から、「なぜ、今、地域福祉が必要なのか?なぜ、地域住民が主体となるべきなのか?」という内容について、自助・共助・公助の観点から説明させていただきました。資料を見ながら、皆さん真剣な様子で聞かれていました。



グループワークでは、様々な意見が出される中、①住民が気軽に集まれる場の不足②活動の後継者不足という2つの内容の意見が数多く聞かれていたことが印象的でした。また、意見は様々であっても「地域を良くしたい!」という気持ちは皆さん同じであるように感じました。

今回、この地域支え合い会議(準備会)を開催することで、参加者それぞれが日頃感じている想いを共有し合うことができ、参加者の中からは「こうやって他の人の話を聞く機会があると有難い」という声もありました。また、小高坂地区の現状について共に考え、意見を出し合う事で課題意識も生まれ、「住民の集まる場として空き家や小学校の空き教室を活用できないか」との課題解決に向けた具体的な意見も聞かれていました。次回は、今回出された課題について、小高坂地区でも取り組みそうなもの話し合うという内容で第2回目を開催する予定としています。



<グループワークの様子>

アドバイザーの田中教授の進行のもと、ワークショップ形式で開催されました。

参加者からは、日常生活での困り事(買い物や通院についてなど)から防災面(道が狭いなど)まで、様々な意見が出され、付箋に込めたそれぞれの思いを熱く語られていました。



下知地区で子育てサロン 「下知スマイルひろば」が始まりました!!

下知コミュニティーセンターでは、だれもが安心して利用できる施設、気軽に訪れられる施設を目指し、活気ある活動が展開されています。子育てサロンは、下知コミュニティーセンター地域活動部会の主催で、今年7月16日から取り組みが始まりました。共催の下知地区社会福祉協議会と下知地区民生委員児童委員協議会の皆さんのボランティア活動によって支えられています。センターの3階にある12畳の和室で、畳の優しい匂いを感じながら、絵本を楽しむことができます。

下知スマイルひろばでは、「絵本の読み聞かせ」と「ふれあい遊び」を行っています。7月16日のサロンでは、仕掛け絵本の「ごあいさつ」に、赤ちゃんは興味深そうに、お母さんたちは楽しそうにされていました。また、交流タイムでは、お母さん方の子育ての悩みについての話に花が咲き、先輩ママたちとの交流の場にもなっていました。最初は見慣れない場所で緊張した表情を浮かべていた子どもさんも、お母さんから離れ、気の向くままに部屋の中を行ったり来たりと、笑顔が溢れていました。



今回は、11月21日(木)午前10時30分から11時30分まで開催予定です。

参加費は無料です。当日会場へ直接おいで下さい。お問い合わせは、主任児童委員：信清(ノブキヨ)さん、携帯 090-7787-1343までお願いします。



地区社会福祉協議会会長等先進地視察研修

—活動の原動力は「楽しさ!!」—

7月25日～26日の一泊二日で、大阪府の池田市社会福祉協議会秦野地区福祉委員会と兵庫県の西宮市社会福祉協議会鳴尾支部鳴尾東分区的活動等について、高知市の各地区社会福祉協議会会長、役員等28名と高知市社会福祉協議会職員で研修に行ってきました。

秦野地区福祉委員会では、16名の役員と池田市社会福祉協議会の方々が私達を温かく出迎えて下さり、組織図や各部の活動紹介をしていただきました。部会は高齢者部会、障がい者部会等8つに分かれて、各校区の地域ボランティア等の協力を得ながら様々な活動を行っていました。活動の原動力は「楽しさ」であることが、地区の方々の熱い説明から伝わってきました。

また、鳴尾東分区では、町内会を1つの単位とした組織で福祉活動が行われていました。各地区ではボランティアコーディネートの研修を受けた地域住民が週2回程度、公民館等で住民の相談やボランティア調整に当たっており、身近な場所で気軽に困りごとの相談ができる体制ができていました。秦野地区福祉委員活動も鳴尾東分区も地域に応じた課題解決の手法を模索しながら、展開されていました。

参加された地区社会福祉協議会会長、役員等からは「自分の地区の活動を整理していきたい」「今後の地区社協の活動の参考になった」等の感想をいただきました。



高校生の施設ボランティア体験学習

ワークキャンプ

今年も様々な想いを胸に、土佐女子高校、高知高校、小津高校、丸の内高校から参加の15名が、土佐希望の家で施設ボランティアの体験を行いました。高校生の多くは、重度、重複障害のある方と初めて接し、戸惑いと不安でいっぱいになったようですが、学習や参加者同士でグループワークに取り組むことで目標設定し、積極的に熱心にボランティア活動に取り組みました。その感想の一部をご紹介します。



グループ発表



なにしておぼろかな



バーベキューおいしいよ!

髪を乾かして
しています!

みんな〜あ集合!

私は、将来の夢へ近づくためにこのボランティアに参加しました。日常の出会いのない重症心身障害児者の施設へ行くことに対し正直戸惑いもありました。一日目実際に施設館内を見学に戻った時、利用者さんを見て不安や緊張がたくさんありました。また、職員さんがあれほどの笑顔で接されていることにとっても驚き、行きたいと思っていた自分の本当の気持ちも忘れかけ、ただ見ることに出来ませんでした。しかし、一日目の午後から三日目の午前中まで、利用者さんたちと過ごしていると、自分が気づいていないうちに笑顔になつていたり、互いが笑い合っていました。そんな時間が増えていくと、いつのまにか、私の担当場所であるあざみにも慣れ、利用者さんたちとの距離も縮まりました。あざみの方たちは、ほとんどの方が、会話が得意言葉を発表なくても、文字シートや表情でコミュニケーションをとってくれ、私自身も言葉だけでなく、体全体を使って会話をしていました。私たちが分

「ワークキャンプで学んだこと」

土佐女子高校二年 谷脇英恵

かつてあげようと関心をしめすと利用者さんも一生懸命力いっぱい伝えている、動けない人、誰しもが会話をすることを楽しんでいるというふうに感じとられる場面も多くあり、たくさんの方を考えたせられました。なので、より多くの方と話したり遊んだりしたいと思い、進んで動くことができました。三日間ボランティアをしていて慣れてきても時々見せる利用者さんの拒否している顔を見て何度も不安になりました。しかし、その度に助けてくださるのも利用者の方たちで、手招きや手をにぎってくれたり、抱きついてくださることで短い間の体験でしたが、この間で多くの利用者さんと良い関係を築くことができました。福祉の現場で体験し、将来就きたい仕事についてたくさん考えましたが、やはり私は、社会福祉士になりたいと強く思います。来年からも参加し、これからの自分の進路に生かしたいと思います。

「ワークキャンプに参加して」

小津高校三年 濱田 雪菜

私は数年前にこのワークキャンプに参加した姉のすすめで今回参加しました。重度の障害の方とふれあうのは初めてで二日目はすごく衝撃をうけました。私が行った、「こすもす」という場所は車イスがなくても元気に歩くことができる方がいるところでした。一日目は私もとっても緊張していて、笑顔を氣にかけていたつもりだったのに顔がこわばっていました。もともと入所者さんとコミュニケーションをとることを目標に二日目は自分から積極的に話かけるようにしました。私が行ったところでは、入所者さんと会話といっても自分が一方的に話すのですが、入所者さんのお部屋を掃除しながら話しかけていると笑顔になつてくれてとても嬉しかったです。まず自分が笑顔になることによつて入所者さんも笑顔になつてくれるということがわかりました。入所者さんの顔を見ながら名前を呼ぶとすごく嬉しそうな顔で返事をしてもらえて、言葉でコミュニケーションがとることが出来なくても笑顔で入所者さんとコミュニケーションがとることができることもわかりました。

最後のふりかえり



土佐希望の家の入所者さんは一人一人特徴も違うし性格も違うけれど、みんな嬉しそうで幸せそうでした。私は将来、看護師として病院で働きたいと考えていました。しかし、今回の経験を通して土佐希望の家のような、障害のある方がいる所で看護師として働きたいと思えました。このボランティアで入所者の方からとっても元気をもらいました。私は障害のある方を身体的にも精神的にもケアできるような、入所者さんを元気にできるような看護師になりたいと思えました。

高知県都市社会福祉協議会会長連絡協議会

平成25年6月28日、三翠園(高知市鷹匠町)で高知県都市社会福祉協議会会長連絡協議会定例会が開催されました。定例会は、県内の市社会福祉協議会会長相互の連携と、資質の向上、情報交換等により、社会福祉の充実発展に寄与することを目的として開催しています。

講演では、講師に大阪府の豊中市社会福祉協議会事務局次長 勝部麗子氏と高知市長岡崎誠也氏を、コーディネーターに高知県立大学教授 田中きよむ氏をお招きし、今年1月に厚生労働省から報告された「生活困窮者の生活支援の在り方に関する特別部会報告書」及び全国社会福祉協議会が発表した「社協・生活支援活動強化方針」を市町村社会福祉協議会としてどう受け止めるのかについてご講演いただきました。

豊中市社会福祉協議会が先駆的に取り組まれている様々な生活課題を抱えた方々に対する「個別支援」と「地域支援」の活動事例から、地域住民一人ひとりに寄り添う、これからの高知市社会福祉協議会が取り組むべき「地域づくり」の形を共有することができました。



車イス等の貸出をしています!!



- ☆貸出し機器：車椅子、シャワーチェアなど福祉機器
- ☆利用料：無料(消毒等が必要な場合は自己負担となります)
- ☆貸出し期間：原則一ヶ月以内
- ☆利用対象者：高知市在住で、以下の理由等により貸出し希望される方。
 - ・介護保険等、他制度によるサービスを受けられない方
 - ・短期間の利用者
 例えば
 (退院後、少しの期間だけ車椅子を利用したい)
 (日頃車椅子は必要としないが、旅行中だけ利用したい)等

福祉機器のご寄付募集

貸出される福祉機器は、市民の皆さんからご寄付いただいた福祉機器を利用しています。皆様の周りで、使われなくなったり眠っている福祉機器(シャワーチェア等)をご寄付ください。

問合せ先

高知市社会福祉協議会
総務課：088-823-9515

祭 デイサービス夏祭り

土佐山

ヨーヨー
つりよっちよれ!
よさこい
鳴子踊り!

春野

センター長の
大道芸白熱!
紙ずもう大会

塩田町



スイカわり



高知市社会福祉協議会が運営する3か所のデイサービス(塩田町、土佐山、春野)が毎年恒例の夏祭りを開催しました。毎年この日のために職員一同は趣向をこらし、利用者の皆さんに楽しんでいただけるよう、3か所がそれぞれ個性豊かな夏の思い出作りをします。

よさこい鳴子踊り、ヨーヨーつり、スイカ割りなどの催しが行われ、フロア内は皆さんの大きな笑い声が響き、普段とは少し違ったお祭りの雰囲気。利用者の方も「楽しいことは、皆で一緒に。盛大で何もかも良かった!」と話して下さいました。

障害者福祉センター就労支援事業所「きずな」開墾式

平成25年6月25日、高知市円行寺の農地で、障害者福祉センター就労支援事業所「きずな」(以下「きずな」)が開墾式を行いました。開墾式には「きずな」利用者や職員、行政、関係者等20人が出席し、農業事業の成功を祈って鍬を入れました。

「きずな」には、現在、身体障がいや知的障がいがある約20人の方が通所しています。日常の業務はポケットティッシュの袋詰め、公園等の清掃を行い、月額約1万円の工賃を受取っています。

利用者の工賃向上等に繋げるため、今回「きずな」は農業事業に乗り出しました。当面は、日常の業務を行いながら、トマトや芋、ハブ茶等を栽培していき、「きずな」で販売し、その売上を利用者の工賃にあてます。



市民後見人養成講座を開催しました

高知市成年後見サポートセンターでは、「地域支え合いの観点」から、成年後見制度の担い手である「市民後見人」の養成を目的とし、平成25年7月に6日間の日程で「市民後見人養成講座」を開催し、42名の方が受講され、39名の方に修了証書を授与しました。

講義内容は、「成年後見制度の基礎」「各関係法の理解」「障害に対する理解」「市民後見人の活動と実際」等を基本とし、各専門職の講師の方々から熱心なご講義をしていただきました。

受講生は、高知市はもちろん、土佐清水市や安芸市等遠方からのご参加も多く、「家族や親族に必要な制度だから」「地域の力になりたい」という熱い思いを抱いた方ばかりで、夏場の6日間という長丁場の講義を熱心に受講していただきました。

受講生からは、「難しい内容ではあるが必要なことなので、とても役に立った。今後も継続して養成講座を実施して欲しい」「相手の立場に立ち、その望むところを把握、実行していくのは大変難しいことがよく分かった」等、様々なご感想・ご要望をいただきました。

今後、講座を修了し、希望される方には、高知市成年後見サポートセンター「後見支援員」として活躍していただく予定をしております。

市民後見人養成講座は来年も開催し、また、今年講座を修了した方に対する「市民後見人フォローアップ講座」の開催も実施する予定です。

この講座開催にあたり、行政をはじめ、各関係機関の皆様の多大なるご尽力をいただき、ありがとうございました。

高知市成年後見サポートセンターでは、今後も住み慣れた地域で暮らすための制度活用に関する相談支援、また、地域課題を解消できるような活動を行っていきたいと思いますので今後ともご支援よろしく申し上げます。

市民後見人とは

判断能力が不十分な状態になった方に対し、家庭裁判所に申立てをして、その人の代わりに財産管理や生活のコーディネート支援を行ってくれる方を選んでもらう制度を『成年後見制度』といいます。成年後見制度によってご本人のことに応じて支援をする人を『後見人』等と言います。色々な事情で親族による後見が難しい場合、第三者の方が後見人になる場合があります。核家族化や高齢化などで後見人の成り手が全国で不足しています。一般市民向けの講座を開設し、後見人になれる人材を養成する試みが全国で行われています。一般市民による後見人を『市民後見人』といいます。



講座の様子



グループワークの発表風景



受講生とセンター職員一同

お知らせ

平成25年度

名士チャリティ色紙展示即売会

「名士チャリティ色紙展示即売会」は、県内外でご活躍されている画家、書家、著名人等のご協力を得て、色紙の即売会を開き、その収益金を障害者団体等に助成する事業です。

今年も画家、書家、漫画家、棋士、芸能人、落語家など様々な分野でご活躍の名士約180名からご寄贈いただいた約280点の色紙を即売いたします。

◆今年度出品名士(敬称略)

MAYA MAXX氏(画家)、羽生善治氏(棋士)、桂歌丸氏(落語家)、小林隆彰氏(比叡山延暦寺)、さいとうたかを氏(漫画家)、飯田順雅氏(洋画家)、中村梅之助氏(俳優)、甫田鶏川氏(書家)……………他約180名



渡辺 章雄 氏(日本画家)



ちば てつや 氏(漫画家)



木村 優博 氏(洋画家)

■開催日程：平成25年

◎11月28日(木) 13:00~17:00

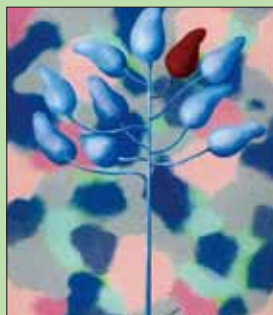
◎11月29日(金) 9:00~17:00

◎11月30日(土) 9:00~17:00

■開催場所：

高知市文化プラザかるぽーと 7F

※即売会はどなたでもご参加いただけます。



ふじい あさ 氏(洋画家)



北村 文和 氏(染色家)

第22回 全国ボランティアフェスティバル高知 開催

大会テーマ/ 時代を拓く市民力(シチズンパワー)ぜよ

開催日:2013年11月23日(土・祝)24日(日)

ボランティア活動をしている方
これから始めようとしている方

全国ボランティアフェスティバルは、全国でボランティア活動やNPO活動に取り組んでいる人が集まり、交流や研究を通じて、その活動の発展を目指しています。ボランティアの国体とも呼ばれ、全国持ち回りで開催されており高知での開催は今回が初めてとなります。

11月23日(13:00~16:40 高知県立県民文化ホール)
全体講演 日本の田舎は宝の山~住民や企業と連携した地域づくり~
講師 曾根原 久司さん
(NPO法人えがおつなげて 代表理事)
ボラフェス・トーク・カフェ
トークテーマ 時代を拓く市民力ぜよ など

11月24日(9:00~16:00 市内各会場)
分科会 市民力を高めるための様々な分野で全24分科会を開催
全国各地から80名を超える講師陣が集結



※事前申し込みが必要です。受付期間8月1日(木)~10月25日(金) 参加費3,000円
申込方法 インターネット、郵送、FAX
ホームページ <http://www.pippikochi.or.jp/kochi2013/>
お問い合わせ先 第22回全国ボランティアフェスティバル高知実行委員会事務局
社会福祉法人高知県社会福祉協議会高知県ボランティア・NPOセンター
Tel 088-850-9100

